

放射線科

文責：金子 隆文

概要

山砥茂也（H28.4.1山口大学より）・金子隆文・狩野裕一（科長）の3名体制に、非常勤：箕田俊文、小池晋司に週一～二回/週で、読影、血管造影等お手伝い願った。

業務内容は昨年同様、検査（MDL・DDL・血管造影・IVR（一部））、読影（CT・MRI・RI・PET）、dataの整理、健診（H17年4月新病院へ移転開院時に、健康管理科（検診センター）に独立）部門のフィルム読影の一部お手伝い、及び放射線治療、日当直業務を行ってきた。

診断検査部門では、CT二台（各々H25.9.24、H27.12.1更新済）による、冠動脈検査や各種臓器の3D表示による検査、MRI二台（第2MRI3T.MRI更新予定、第1MRI更新H29.12.11臨床稼働）ではMRA・MRCP、PET検査による癌診断など新しい分野の診療が定着し、さらなる検査精度の向上や時間短縮が得られている。また、血管造影装置2台（更新H24.3.29より心カテ、5.29より汎用稼働）や、RI検査部門でも、ガンマカメラ装置（更新H28年1.6）が、順調に稼働している。

病院オーダリングシステム（HIS および RIS）では、放射線検査データのデジタル保管及び、PC 端末を利用したレポートシステムも順調に稼働。H 24 年度より開始のフィルムレス運用も、従来のフィルムの代わりに、各診療科外来・病棟の PC 端末で画像デジタルデータおよびレポートとして参照・運用されている。H28 年度（H28.9.13）より電子カルテ化（種々の書類（放射線検査レポート、紹介状等）のデジタル化）が開始、ペーパーレス運用がなされている。

医療機器共同利用システムとして、病診連携室の協力も得て、PET,CT, MRI, RI検査等（放射線検査）の院外診療施設よりの直接依頼受入体制（検査直接申し込みによる外来検査予約とし、紹介状と検査依頼書の作成添付をお願いし、検査当日の報告時には、検査フィルム+検査報告書を原則添付）も順調に稼働している。こちらも従来のフィルムその他、フィルムレス化しデジタルデータ管理（CDに画像viewer soft 付き DICOM

dataとして記録したもの）の添付とともに、院外へのネット配信も可能としている。

治療部門は、CTをベースとした治療計画システムと、患者固定装具の導入、治療室同室CT装置導入で、定位集光放射線治療も可能な設備とし稼働している。H27年9月末、治療装置（liniac）更新工事実施。現装置の最終更新となった。H23.11.4より、泌尿器科と共に、前立腺密封小線源治療が開始、順調に稼働している。

画像検査部門：年間検査件数（H30.4.1～H31.3.31）レポート件数として、CTは14811（院外172）件、MRIは5254（院外301）件、RIは299件、PETは420（検診5、院外79）件であった。CTとMRIで件数およびデータ量の増加傾向がみられる。他、血管造影（IVR含）が約40件、消化管透視104（上部49、下部55）件で、こちらは現状維持であった。

放射線治療部門：外照射治療及び治療計画は、月～金の連日午後外来としている。因みに、新患登録（H30.4.1～H31.3.31）127例、外照射治療計画件数は170件（追加計画43含）であった。前立腺密封小線源治療は、2-3例/隔週～3週/月の木曜日1日で、治療患者数（H30.4月～H31.3月）として、61例（外照射併用14例含）に施行。他、癌骨転移症例へ、Sr治療、1例、Ra治療1例に施行された。